

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月7日

【評価実施概要】

事業所番号	3771500521
法人名	社会福祉法人 柗会
事業所名	グループホームあいむ
所在地	香川県高松市国分寺町新名478-1 (電話)087-864-9000

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価決定日	平成20年11月7日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 平成14年3月6日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	26人 常勤 15人, 非常勤 11人, 常勤換算 19.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1・2階部分および3階建ての1階部分
------	---------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~42,000円	その他の経費(月額)	1,2000~I,4000円	
敷金	(有)100,000円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	58歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人高島病院 岩田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地がゆったりとした玄関前は掃除が行き届き清潔である。駐車場もゆったりとしている。グループホームは2つの建物で3ユニットになっており、施設内はゆったりとした空間と機能的な構造で、落ち着いた色調の床材や窓からは適度な明かりが保たれており、利用者がのびのびと暮らしている。運営理念は地域密着型サービスにマッチするものであり、運営者が職員との距離を少なくする努力をしている。職員は利用者へ目配り、気配り、心配りを重んじたケアが浸透しており、協力病院との連携もよく夜間でも安心して利用者を見守れると職員から聞くことができた。地域との連携には真剣に取り組んでいるが、期待する結果までには結びついていないが努力している様子がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題について、職員全員が真摯に受け止め問題解決を話し合い改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義や目的を理解し、職員一人ひとりに自己評価への参加を呼びかけ意見交換をしている。意見を聞くだけでなく職員全員で改善に取り組み、改善していこうとする姿勢がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>事業所からの報告と共に、参加者からの意見や質問、要望を受け話し合いが行われており、助言や意見をサービス向上に活かしている。市の担当者や支援センターとの連携も取れている。地域からの参加者については現状を大事にしながら多角的な視点で考えてみる姿勢がうかがえた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族代表が交代で運営推進会議に出席する機会があったり、家族会、意見箱の設置などで意見、苦情、不安を聞き入れている。毎月1回利用者の健康(受診状況を含む)状態・生活状況・金銭報告・行事のお知らせなど郵送して情報の提供をしたり、面会時職員がコミュニケーションを図り意見、苦情、不安の言える状況づくりに心掛けている。また、それらの意見は、改善や運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の保育園や民生委員、婦人会を中心に年間数回の訪問、見学を受け、地域の行事にも家族と参加したりしながら地域との関係づくりに努力し、少しずつ地域に根差した場の確保ができあがりつつある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初から地域のニーズを大事に事業所を立ち上げ、家庭的な環境づくりと地域住民の交流を重視した独自の理念をつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者の思いが管理者、職員一人ひとりに浸透しており、理念を具体化していくために、チームで意見を出し合い確認している。そのため、職員は楽しく利用者とかかわり、言葉で表現できない利用者にも、表情や態度によるサインを見落とさないように心掛けて支援している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的には幼稚園、保育所などから、不定期では民生委員のボランティアや婦人会の見学などあり、利用者が楽しみにしている。散歩や隣接の協力病院での受診、リハビリでは挨拶や声掛けに心がけている。また、買い物は近くの市場を利用する。施設からは地域の夏祭りに職員が踊りの連を組んで参加したりして地域との付き合いを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングなどで、ユニットごとに自己評価を項目ごとに話し合い作成した。外部評価の改善項目についても職員と話し合いながら改善に取り組んだ。	○	質の確保・向上にはゴールはなく、職員一人ひとりが最初に項目ごとの自己評価をし、どこに課題があるかに気付き今後の取り組みを考える。その上にチームとして評価に取り組み活用することを期待する。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月一度運営推進会議は実施している。議題は報告や情報交換を行うと共に検討事項や懸案事項についてメンバーから意見をもらい、サービス向上に活かす努力をしている。利用者家族から職員に名札をつけて欲しいとの要望には早速つけていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町や支援センターの職員とは困ったことや判らないことを気軽に相談できる関係ができていて、相互に連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し、家族の安心につなげている。また、毎月、健康(受診結果を含め)状態・生活状況・金銭報告・行事などについて、全員に手紙を郵送しコミュニケーションを図っている。広報誌「ひいらぎ」は、利用者のスナップ写真を中心に親しみやすくして年間2回作成して家族に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会を始め、玄関に意見箱を置いたり面会時の声かけなどから苦情が言いやすいように接し、傾聴するように務めている。そして、家族の運営に関する意見は、全て真摯に受け止め改善につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や運営上の全体を見て実施している。日ごろから理念をチームで話し合っ生活援助を行っているためか、異動による利用者の変化は殆ど見られない。家族へは面会訪問時に挨拶をしてコミュニケーションを図ると共に理解を得ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連施設も多いため、職種は勿論、育成指導者の人材も多く施設内の研修、勉強会、研修の報告会など職員の教育機会は多い。また、施設外の研修は交替に参加できる機会が与えられている。採用時には「個人ノート」による記録を活かしそれを基に指導をし効果が出ている。	○	職員育成には取り組まれているが、実践の経過を整理する意味で年間指導計画表を作成することで、管理者、職員ともに実施状況が把握、評価しやすくなると考えるため取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の知り合いを通じて交流を取り向上につなげている。その他福祉関係の学校から学生実習を3校受け入れ、実習指導する機会を捉え、職員の学習意欲・資質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族と相談時点から数回の面接を行い、信頼関係を築く努力をし、事前見学も実施することでホーム内を知り、徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から家族と連携を図ることで、家族の思いを知り、支えていく努力をしている。利用者が自分の気持ちや希望を表現できるよう、気配り・目配り・心配りなどに努め利用者に寄り添うことで、喜怒哀楽を共有し相互に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気配り・目配り・心配りの生活援助を通して、思いを言葉で表わせるようにかかわりを取っている。また、話せない利用者には表情や態度から利用者の思いを酌む努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が安心してよりよく暮らすために、利用者・家族・関係者でよく話し合い、意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の様子やケアの結果、職員の気付きや工夫を担当者が介護支援経過を具体的に個別記録として整理し、情報を共有している。3か月ごとに介護計画の見直しを家族や関係者で実施している。また、対応できない変化が生じた場合は、その都度見直し、実践的な計画としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や外出支援など事業所の機能の中で可能な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を最大限かなえるようにしているが、殆どの方が医療との連携のよい隣接する協力病院を希望する。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については同意書を取っている。そして、早い段階からかかりつけ医、家族との話し合いのもと、全員で方針を共有し変化していく症状に対して準備や検討をしている。また、協力病院の連携も密にして指示やアドバイスをもらい、支援に取り組む体制となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを配慮した言葉掛けや対応ができています。個人情報の扱いについては、入所時に同意書を取り書類などは事務所で保管し、人目につかないように管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせ思いや希望を表現できるように分かりやすく働きかけ、自己決定を大切に支援している。また、日々を楽しむ生活の場となるよう心掛け支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の献立を基にして各ユニットで毎食利用者と調理することを方針としている。無理強いしたり押し付けにならないようにその日、その時の体調や調子を見ながら、利用者の力を活かし一部分を担う場面づくりを工夫している。食事は職員も共にテーブルに着き、一緒に味わいながら楽しい雰囲気づくりもできている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングにあわせ午前・午後に入浴できるように職員が支援し利用者が楽しむように支援している。着用している服装は清潔感がうかがえた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力を活かし、強制ではない役割分担や(洗濯物たたみ・お膳拭き・花の水遣りなど)気晴らし(カラオケ・ドライブなど)をすることで生きがいを持った生活ができるように支援している。そうすることで、利用者間で声かけをする光景も見られるようになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月外に出かける行事を計画している。その他、希望に合わせて買い物に出かけたり、近隣を散歩したりしている。また、広い敷地内を自由に散歩するなどして利用者の気分をリラックスするように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者および全ての職員が鍵を掛ける弊害を十分理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいるが、その日の利用者の状況により危険回避のために一時的に出入り口を施錠することがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員、利用者が一緒に避難訓練は年1回実施し、より具体的な避難誘導策を検討し災害に備える努力をしている。手順書は定位置においている。地域へは民生委員を通して協力依頼している。危険回避については、浴室は時間外は施錠したり、危険物は利用者が使えない場所に整理収納できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調の変化や異常に合わせて栄養の偏り水分不足が起こらないよう摂取量を記録している。排泄も排便チェック表を基に便秘予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は玄関前から廊下、居間、台所、食堂、トイレなど清潔感あふれ掃除が行き届いているため、利用者が安心して落ち着いている様子がうかがえる。それぞれの空間は不快な音もなく、適度な照明であり、調度品や壁飾りなど控え目に季節感を取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、今までの生活で馴染みのある物の持込が可能で、自宅での思い出の写真や小物が飾られ、利用者は勿論のこと家族も大切に、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。また、ベッドの高さは転倒予防のために低めにしている。		